

## 第3回世界気候研究計画(WCRP)再解析国際会議の開催について

地球温暖化などへの関心が高まっている中、気象関係機関には、気候変化の正確な評価が求められています。その鍵を握る技術のひとつが、長期にわたる気象データを最新の技術で分析する「再解析」です。この技術やその利用法の発展のため、「第3回 WCRP 再解析国際会議」を東京で開催します。会議では、気象庁・電力中央研究所が作成した長期再解析(JRA-25)データの利活用など、世界の研究者が行った研究成果が報告されます。

本会議は、梅雨期における東アジア域の対流の変動や熱帯擾乱の発生、水・エネルギー循環などに関する研究や応用利用について、これまでに実施された再解析によって得られた成果や再解析データに関する技術開発の成果を発表し、気候解析等の高度化を図ることを目的として、各国の気象機関関係官や気象学者が参加する専門家会合です。

### 記

主催：世界気候研究計画(WCRP)、気象庁、(財)電力中央研究所、東京大学  
後援：地球観測に関する政府間会合(GEO)、全球気候観測システム(GCOS)  
期間：平成20年1月28日(月)10時～2月1日(金)13時までを予定  
会場：東京大学生産技術研究所(東京都目黒区駒場)  
議題：別紙に掲げる5つのセッション、論文発表数は154件

(口頭発表63、ポスター発表91)

参加国：日本、米国、インド、中国、英国をはじめ、世界25か国から約200名。

(参考) 第1回会議 1997年10月、米国・シルバースプリングで開催  
第2回会議 1999年8月、英国・レディングで開催

- \* WCRP は、世界気象機関(WMO)、国際科学会議(ICSU)、ユネスコ政府間海洋学委員会(IOC)の出資により運営され、気候予測研究、気候システムの科学的理解を促進することを目的としている。
- \* JRA-25 データは、世界の40か国、500名以上の研究者に利用されています。
- \* 本会議は、会議の頭撮り(5分程度)及び傍聴が可能です。頭撮り及び傍聴を希望する社は、事前に総務部総務課広報室までご連絡頂くようお願い致します。

本件に関する問い合わせ先：

気象庁地球環境・海洋部気候情報課  
電話：03-3212-8341(内線：4224、3164)

## 第3回WCRP再解析国際会議の各セッションと主な講演者

### 1. これまでに実施された再解析の実績紹介(1月28日午前)

- ・大野木和敏 (日本、気象庁：JRA-25とその成果)
- ・Sakari Uppala (英国、ECMWF：ECMWFの再解析の展望)
- ・Robert Kistler (米国、NCEP：これまでのNCEPの再解析と今後)
- ・Siegfried Shubert (米国、NASA GMAO：NASAのMERRA再解析)

### 2. 再解析データの応用と利用(1月28日午後～29日)

- ・Phillip Arkin (米国、メリーランド大学：応用面からみた再解析データの特徴)
- ・Kevin Trenberth (米国、NCAR：再解析による水とエネルギーの循環の比較)
- ・金光正郎 (米国、スクリプス海洋研究所：全球再解析の力学的ダウンスケーリング)
- ・Detlef Stammer (ドイツ、ハンブルク大学：海洋解析の現状と展望)
- ・沖 大幹 (日本、東大生産技術研究所：再解析データによる全球陸面水循環の評価)

### 3. 再解析データの特徴の比較と検証(1月30日)

- ・安成哲三 (日本、名古屋大学：梅雨期における東アジア域の対流の変動)
- ・杉 正人 (日本、気象研究所：JRA-25を利用した熱帯擾乱発生に関する研究)

### 4. 再解析のためのデータ同化技術(1月31日)

- ・Andrew Lorenc (英国、UKMO：先進的なデータ同化技術の大気モデルへの適用)
- ・小池俊雄 (日本、東京大学：衛星のマイクロ波放射計データによる大気陸面結合解析)
- ・Eugenia Kalnay (米国、メリーランド大学：再解析のためのアンサンブルカルマンフィルター)
- ・三好建正 (日本、気象庁：気象庁におけるアンサンブルカルマンフィルター(LETKF)の開発)

### 5. 将来の再解析に向けた取り組みと国際協力(2月1日)

- ・Gilbert Compo (米国、NOAA：地上気圧データを用いた20世紀再解析)
- ・パネルディスカッション (議長：Michael Manton、オーストラリア)